

平成 28 年度 記者懇談会（第 9 回）の記録

日 時 平成 29 年 1 月 27 日（金）午後 3 時 30 分

場 所 水道庁舎 4 階 会議室

記者数 8 人

同席者 阿部副市長、天野副市長、総務部長、建設部長、健康福祉部長

次 第 1 雪対策の進捗状況について

2 その他について



1 雪対策の進捗状況について

説明内容

(市長)

かねてから全庁的な本部体制を敷いた中での総合的な雪対策を進めているところでありますが、現段階での雪対策の進捗状況ということで、お話をさせていただきたいと思っております。

資料に沿ってご説明となります。

はじめに、今シーズンの雪の状況でございますが、1月27日現在、累計の降雪量が324センチ、積雪の深さが44センチと、平年を下回っている状況でございます。なお、今日のこの状況でございますので積雪がかなり減りまして37センチくらいまで減っている状況でございます。特に積雪の深さでありますと、日平年値が83センチでございますので、平年の半分以下という状況でございます。

経過といたしましては、大晦日までは、降雪量・積雪深ともに、ほぼ平年並みで推移をいたしました。正月三が日は降雪が無い恵まれた天候からスタートをいたしました。その後も穏やかな日が続いておりまして、札幌市や千歳市、苫小牧市などが大雪傾向の中、当市の1月の降雪量は、記録的な少雪となっております。1月に入ってから降雪量は56センチで、平年の207センチと比べても4分の1、また、平成3年1月の月間72センチという最小記録を更新する可能性も残っているところでございます。しかしながら、ここ数年、数日の間で、一気に背丈を超えるような雪山ができてしまうような大雪を経験していますので、少雪とは言え、緊張感を保ちながら今後も対応にあたってまいりたいと考えております。

次に、運搬排雪の実施状況でございます。

12月には、これまでと同様、まとまった雪の日が数回ありました。バス路線や幹線道路の雪山も高くなっておりまして、年末から1月上旬にかけて、順次、排雪を行い、その後は引き続き、小・中学校の始業式に合わせて、学校周辺の通学路を中心に、計画的に排雪を実施してまいりました。

これらの路線につきましては、ほぼ一通り排雪を完了している状況でございます。その路線数と延長につきましては、1月23日現在でございますが、88路線、延べ60キロメートルとなっております。

また、国道・道道の排雪も順調に進んでおりまして、岩見沢市内、良好な道路状況が確保されているのではないかと考えているところでございます。

なお、昨日からでございますが、利根別川消流雪事業を市内中心部で開始しております。本日も、利根別川に架かる橋梁から投雪作業を行い、周辺道路の拡幅作業を実施しているところでございます。

次に、市民雪堆積場における雪の搬入状況でございます。

今年度から、新たに市内西側に位置する市民向けの雪堆積場として、「上幌向町雪堆積場」を開設することができました。1箇所増となる市内4箇所の雪堆積場で、12月23日から雪を受け入れているところでございます。

資料にありますように、今のところ、いずれの雪堆積場もまだ十分余裕がある状況となっておりますが、平年ですと2月だけで1メートル50センチ以上の降雪がござい

ますので、今後、屋根の雪下ろしが必要になりますと、一気に受け入れ量が増えるものと予想しているところでもございます。

次に苦情・要望等の状況でございます。

この冬、これまでに寄せられた苦情で最も多いのは、置き雪に関するものでございまして、高齢者世帯からの苦情が増えている傾向にございます。また、従来からも寄せられておりましたが、かき分け除雪に対する苦情で、左右の不均衡、あるいは除雪のやり方そのものに対する苦情も多くなってきているところでございます。

また、今年は雪が降った後、気温の高い日が続くことがありまして、雪堆積場の開設が非常に難しく、まとまった降雪があった翌日には雪堆積場開設に関する問い合わせも多くありました。

その一方で、除雪後、明け方の降雪が少なかったため、除雪が入っていないという苦情は昨年と比べると少ない状況でございます。

次に空き家の対応状況でございます。

資料にありますように、市が把握している管理不全な空き家は197件でございます。前年度に1回目のパトロールを実施した時と比べて16件増えている状況でございます。このうち、落雪などの恐れがある120件について、1月17日から19日の3日間でパトロールの実施をいたしました。屋根の形状や積雪の状況、建物の配置などを勘案し、落雪被害の恐れのある3件に対して、現地の状況が分かる写真を添付して指導書を送付したところでございます。

そのほか、解体されていたものが1件、住家として使用されていて空き家でなくなっていたものが1件確認したところでございます。残りの115件につきましては、屋根への積雪や危険度の観点から、経過を観察しているところでございます。

次に高齢者世帯の雪下ろし助成の登録状況でございます。

登録者数は昨年同時期と比較して2世帯少ない156世帯となっておりますが、実際に雪下ろしをした世帯はございません。ここにも少雪傾向が反映されているのではないかと考えているところでございますが、ここまで屋根の雪は相当締まって重さを増していることも考えられますので、今後の降雪によりましては雪下ろしを実施する世帯が出てくるものと考えております。その雪下ろしの登録事業者でございますが、昨年より2社増えまして、24社となっているところでございます。

次に弱者等調査支援活動の対象者の状況でございます。

この冬も岩見沢市では、大雪の際に素早く対応できるよう、昨年12月23日から活動の準備を整えておりまして、この弱者調査と併せまして、市民からの通報により弱者支援を行う緊急支援班も1日2班の体制を敷いているところでございます。

出動実績でございますが、このように少雪ということでございますので、一斉調査そして支援、緊急支援のいずれも実施をしておりません。

次に人的被害の状況でございます。

昨年同時期では5件の人的被害、重傷4件、軽傷1件がございましたが、今年の冬は少雪傾向ということで、事故は1件でございます。しかし、その1件が残念なことに死亡事故となっているところでございます。事故の詳細につきましては資料のとおりとなっております。

最後に雪下ろし装備の貸し出し状況でございます。

今年の冬はここまで、貸し出しの実績はございません。しかしながら、岩見沢の場合、一晩で50センチ近くの降雪に見舞われることもありますので、雪下ろしが必要となった場合は、「複数人で作業すること」「安全装備を装着すること」「安全確保に努めること」などを守って作業を行っていただきたいと考えているところでございます。

なお、15組と数に限りがございますが、安全装備をお持ちでない方に対しましては、市が、安全帯・ヘルメット・命綱のいわゆる「雪下ろし3点セット」の貸し出しをしておりますので、ぜひご利用いただきたいと考えております。

質疑応答

(HBC)

最初の方での説明で、今回は記録的な少雪ということでしたが、今まで一番少なかった記録を教えてください。

(市長)

一番少なかったのは、平成3年の72センチという記録です。月間降雪量ですね。直近では平成26年のシーズンで5メートル2センチという稀にみる少雪というのが記憶に残っています。平成23年のシーズンが11メートルでしたから半分以下ですね。25年のシーズンが685センチ、26年が先ほど申し上げた通り502センチ、27年が657センチ、30年平均の降雪量が733センチでございますので、いずれも下回っているという傾向が続いている状況でございます。

(建設部長)

シーズンの最小ですが、これまでに昭和28年の観測開始以降ということになります。昭和33年度が326センチ、平成2年度が395センチという記録が残っています。

(北海道新聞)

2月、3月の平均の降雪量はどのくらいですか。

(市長)

2月が160センチ、3月が89センチというのが平年値。

(北海道新聞)

今年6メートルくらいになるかもしれないですが意外と除雪費というのは抑えられないかもしれないと聞いていますが。

(市長)

岩見沢市の除雪費は出来高払いにはなっていないので、降雪量に応じて契約を結んで、設定降雪量が7メートルですので、そのプラスマイナス10パーセント、ですから少雪の場合は6メートル30センチに対してどれくらい降ったかという計算方式、増えた場合は7メートル70センチを超えてどれくらい降ったかというような清算の仕方、ですから多少の上下はその中で吸収するようなシステムになっております。

(北海道新聞)

ここ3年間は市の予算は13億7,500万円くらいになっておりますけれども、例えば6メートルくらいに収まった場合には概算でどのくらいになるのでしょうか。

(建設部長)

数パーセント程度下がるかもしれないというところです。

(北海道新聞)

排雪は回数が少なければかなり費用を抑えられるのですか。

(市長)

排雪は今1キロ単価平均で180万円くらいかかります。

(建設部長)

1回当たりの距離が延びるとキロ当たりの単価が下がりますので。

(市長)

ですから、一通りキロ数は実施をしてきているので。

(建設部長)

これから自主排雪が本格化いたしますので、その自主排雪の運搬路の確保が出てきます。そこに排雪費用が出てきます。

(市長)

この雪の状況ですので、現在のところ補正予算を早急にというような状況にはないということです。

(プレス空知)

置き雪対策の調査・研究という部分が今時点でどんな内容で、どの程度取り組んでいらっしゃるのか進捗を教えてください。

(市長)

工区を担当している業者、間口や敷地内の雪の処理を請け負っている業者の市内全域での活動調査というのでしょうか、実態調査というのでしょうか、どれくらいの経費でどのような作業を行っているのかというのをほぼ一通り調査を終えたというような状況です。

(プレス空知)

ということは、今シーズンはそれ以上の調査というのは行わないということですか。

(市長)

大きな方向性としては、今、地域除排雪支援事業ということで町内会もしくは最寄りの方とあるいはその敷地の所有者の方と市が三者相応出し合ってボランティア作業を中心として雪の処理の対策をとっているんですけども、担い手不足あるいは町内会の高齢化という問題もあってなかなかマンパワーが確保し辛くなってきているということと、どか雪ということになると処理する量が増えてきている、機動力にも限りがある。そのようなことで地域自主排雪支援事業ではカバーしきれなくなってくるだろうと、そういったことで改めて民間事業を取り込んだ受益者負担の観点に立った新たなシステムを構築できないかというようなことで、全市の全域調査を行ったというようなことになります。

(プレス空知)

置き雪対策のところで、次年度、来シーズンに向けて試行といいますか、一部でも実施できそうなそんな手応えというか動きはありますか。

(市長)

一部業者さんの中ではとても優れたシステムとして、ビジネスとしては十分成り立ち得ることを実施している地区はあるんです。そこは実は自前で雪を処理する場所を持っているというのが大きな特徴になっているかと思います。都市計画マスタープランとも関連するんですけども、数年前から実施している公園での雪処理の活用、雪入れとか、それに向けて公園の集約とか、冬期間は雪の処理を例えば業者の方が置き雪をすくって積んでいっても公園の敷地を有効活用して冬の間はそこに雪を抑え込めるような、効率のいいような公園配置とか公園の集約といいますか、遊具の配置の仕方だとかそういったことの検討も今進めているところです。去年公園の利活用の実証を行いましたけれども、公園に近いところは非常にメリットがあるんです。ところが公園から遠いところは不公平感が出るという課題があります。規模は小さくても一定程度の雪の堆積場が多くあれば効率的な置き雪処理に繋がるのではないのかというような課題は明らかになったかなというようなところです。

(北海道新聞)

遊具の配置というのは排雪する道路の近くには設置しないというようなことですか。

(建設部長)

例えば公園のほぼ中心部というか、散らばっている遊具を中心に寄せる、あるいは利用の実態を見て種類を減らしていくなどですね。

(市長)

ある程度センター的な公園に遊具を集中するとか。

(北海道新聞)

新年度はそういう動きがあるんですか。

(市長)

都市計画マスタープランの中でそういう方向性は出ると思いますけれども、実際にそれに向けたハード整備というのはその先になりますけれども順次展開できるところから。ただ、できるところとできないところの不公平感が残ってしまうとそれは大きな課題なのであくまでもその冬の間ビジネスとして業者の方がやっているケースもありますし、ボランティアで重機を使ってなさっている方など色々なケースがありますので、実態はある程度把握はできたというのが正直なところですね。

(プレス空知)

まだ次のシーズンからこうですというようなところはこれからの検討でということですね。

(市長)

そうですね、いろんなバラエティに富んだことがあります。

(北海道新聞)

苦情要望が一番多いのはその他なんで、その他の中でどんなものが多かったのか教えてください。

(建設部長)

本当に細々としたものなんですけれども、そもそも体制というものが不十分だとか、言うことに応えてくれないとか、それは要望があってもそれにはお応えできないんで、

ご理解くださいと言っても、それぞれ自分の考え方をお持ちなんですね。例えばもう少し時間を早められないか、時間を遅くできないかとか、もう少し音を静かにできないか、日中できないかとかそういうものが個々にあります。

2 その他について（記者からの質問）

質疑応答

（プレス空知）

年明け 5 日に東小学校の灯油のタンクから灯油漏れが発生して周辺の川に流入していたというリリースがあったんですけども、結果的には学校の方で恣意的な不備があったとかではなくて、経年劣化の部品があったところが原因だという話だったんですけども、第一報としては市民の方からの通報、問い合わせを受けて対応したというふうに担当課の方で聞いたんですけども、翌日にはある程度原因を追究して対処しましたということだったんですが、案件が案件ですので、例えばホームページやFMはまなすでの緊急放送などそういったものも含めて、何か周辺の住民に今こういう事案ですが、こうですという状況を随時提供していくという体制が無かったのかなと思うんですよね。少なくとも我々リリースを受けたのは翌日の 18 時前後でした。収束して幸い人的な被害は無いということだったのでいいのかなと思うんですが、これが岩見沢市の市民の問い合わせに対する対応、一部の部分では対応はしているんでしょうが、問い合わせしていない方は不安に思っている方は少なからずいるんじゃないかなと思うんです。今回この周辺だったからよかったんでしょうけれども、これが幾春別川周辺だったらどうだったのかなとかいろんな疑問が湧いちゃうんですよね。このへんの事案に対する対応、広報の有り方が今後もこういう流れでいくのでしょうか。その部分は市長のご意向を聞きたいと思ひまして質問させていただきます。

（市長）

きめ細やかな対応ということについては、これからも留意してしっかり対応していきたいと思っております。今回の事案、私も 5 日の夕方になってから報告を受けたんですけども、新田さんがおっしゃったように午前中に市民からそういう通報があったということで、通報があると環境部、消防本部が出てその流出元等々の調査に早急に当たる訳ですけども、午後になりましてから学校施設から漏れている可能性が高いというようなことで、最終的に夕方になってから、東小学校の屋外に設置している灯油タンクが流出元の可能性が高い、流出していると。当然のことながら漏れ出るものの流出防止という対策はとるんですけども、学校施設内の点検も含めて早急を実施をしたいということで、私の方からは翌日、早朝からすぐやりたいということでしたので、それについては速やかに調査をして、流出元がはっきりした段階で速やかに報道機関の皆様へプレスしてくださいというようなことを指示したところでございましたけれども。それが翌日に判明して流出元と対策が確定したのが夕方と、地下の埋設管も含めて圧力をかけて調査をしたというような状況でしたので、6 日の夕方にプレスリリースになったというようなことでございました。

(プレス空知)

プレスリリースの指示があったということですが、これは6日の朝ですか。

(市長)

5日の夜です。それは流出元をしっかりと把握したうえで速やかにということですよ。

(プレス空知)

例えばこういった場合、状況の中から大きな被害をもたらすことがないだろうということだったのかなということでしょうか。

(市長)

個々の案件で確かに違ってくるのかと思います。これが流出マツトでなかなか防ぎきれないような流出が発生しているといった時にはそれはまた別の対応が当然必要な訳ですけども。流出の状況等々を見たうえで速やかに流出元を把握する必要があるということで速やかに調査を実施してください、速やかに把握できたらプレスの皆さんに報告してくださいというふうに私は申し上げたところです。

(プレス空知)

ただこの件でいけば、灯油の量は程度によるのかもしれないですけども、灯油は危険物であるならば、まずは第一報として漏れているよという旨の一報があってもしかるべきではないのかなと思うんですね。

(市長)

ご指摘に際しては、きめ細やかな対応をこれからは心掛けていきたいとおいふふうに思っています。流出の状況等々を勘案して、これが急激に増えるような状況には無いということで、むしろ流出元、原因の究明と発生源の対策について万全を期すために早急に取り掛かるようにいうようなことを優先したということですよ。

(プレス空知)

できれば6日の昼くらいにはある程度話ができたのではないかなと。一方で夏場に毎年のように水道水が白濁しているという苦情があって、それに対してホームページでこの時期水道水が白濁していますが、これはこの時期特有のものであるというようなトピックスが新着情報の中に市のホームページに出ているんですね。ところが、この手のものは昨日現在でこのような事案がありましたというのは市のホームページの方では一切なかったんですね。市としてリリースいただくものはいただくとして、ホームページの方で公表するというか、こういうのはありましたけれども安心してくださというように事というのは提供していく必要はないのか、あるのかその部分はどのようにお考えですか。

(市長)

一概にやる、やらないという議論ではないのかなと、水道水の場合は、安全、健康被害に直結する問題ですので、白濁というケースは気温が上がったケースとかいろいろなケースがありますけれども、水道水の安全性の確保ということでは、そういう情報があった時には市内全域、あるいは給水の経路によっては広く出るケースがありますので、そういった面についてはお知らせするのは当然だと思いますし、今回の灯油漏れということですけども、先ほど申し上げたとおりきめ細やかな対応についてはしっかりとやっていきたいということと併せて、被害の拡大の恐れ等々の進捗を見極め

ながら、その確認の方を急いだというのが実態でございまして、ご指摘の点につきましては、今後きめ細やかな対応としてしっかりやっていきたいと思っております。これが例えば大きな岩見沢市内にある石油タンク、重油タンクが漏ってなかなか発生源が把握できないどころか、全然止まらないというような状況だと、全く違った対応になったかと思っておりますけれども。私が申し上げたいのは速やかに対応することです。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：岩見沢市秘書課広報係)